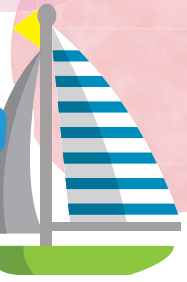


ふじのくに 静岡みなと通信

第34号
令和7年1月23日



(提供：富士市 宮崎泰一)

目次

静岡みなと通信「第34号」発行に寄せて（富士市長）	1
静岡県港湾振興会の活動報告	2
「みなとオアシス土肥」登録証交付式が開催されました！	3
祝 大井川港開港60周年	4
みなとニュース	5
みなと自慢（松崎港）	11
港こぼれ話	13
港湾関係行事予定	15



松崎のまちなみと松崎港（提供：松崎町）



静岡県港湾振興会副会長
富士市長 小長井 義正



全国有数の「ものづくり県」である本県において、港湾は、海上輸送における物流や産業の拠点であるとともに、クルーズ船の寄港等をはじめとする国内外からの観光交流拠点としても注目されており、その役割は、地域産業や県民にとりまして、活力に満ちた魅力的地域づくりを進めるための重要な「核」として、ますます重要となっております。

当市の田子の浦港は、航路泊地の水深12mへの増深やレベル2津波に対応する波除堤の機能強化が完了したことにより、災害に強い安全・安心な港湾となり、静岡県東部の産業経済の物流拠点及び大規模災害発生時における防災拠点としての役割を担っております。

また、日本で唯一、海拔0mから富士山頂までを眺望できることや、「地理的表示(GI)保護制度」に登録された「田子の浦しらす」を味わうことができることに加え、令和5年度に外国クルーズ船が初寄港するなど、客船寄港地としての新たな魅力も創出されております。

このようなことから、更なるにぎわいの創出に向けて、フォトスポットの設置や官民連携を見据えた基盤整備の検討、年間を通じたイベントの開催、工場夜景やイルミネーション等による魅力の発信など、地域住民、港湾関係者が一体となった取組を進めているところであります。

今後も静岡県港湾振興会の皆様と共にハード・ソフト施策を積極的に取り組んでまいりますので、皆様方より一層の御支援、御指導の程、よろしくお願いいたします。



令和5年に初寄港した外国クルーズ船「スターブリーズ」



漁網倉庫跡地に設置したフォトスポット



地理的表示(GI)保護制度登録「田子の浦しらす」



多くの来場者でにぎわう「田子の浦港漁協食堂」

静岡県港湾振興会の活動報告

令和6年度日本港湾協会定時総会に出席

令和6年5月29日(水)、広島県福山市のふくやま芸術文化ホールリーデンローズで日本港湾協会の総会が開催され、当振興会からは下村副会長(御前崎市長)をはじめ12名が出席されました。

港湾功労者等表彰式では、本県から静岡県清水港管理局、清水港・みなと色彩計画推進協議会が、「清水港日の出景観・賑わい創出型防潮堤整備」を評価され日本港湾協会技術賞を、静岡県の港湾の振興に御尽力された、杉山雄二様、吉川正剛様、前田仁司様が港湾功労者表彰を受賞されました。



表彰式(企画賞を受ける杉本清水港管理局長、東会長)

令和6年度静岡県港湾整備促進大会を開催

令和6年7月24日(水)、ホテルグランヒルズ静岡において、多くの港湾関係者や行政関係者等の御参加をいただき、港湾整備促進大会を開催しました。

難波会長(静岡市長)の挨拶の後、鳥澤県議会副議長、増井副知事をはじめ来賓の方々から御挨拶をいただきました。

御出席をいただいた小長井市長(富士市)、下村市長(御前崎市)、杉本市長(牧之原市)、頼重市長(沼津市)、齊藤市長(熱海市)、松木市長(下田市)、岡部町長(南伊豆町)、深澤町長(松崎町)から「地域の声」と題して意見発表をいただき、大会の最後には、「静岡県の港湾整備の促進に関する要望」を満場一致で決議し、関係各方面に対して運動を展開していくこととしました。

また、大会に先立ち、大阪商業大学総合経営学部商学科 松尾俊彦教授を講師にお迎えし、「物流の2024年問題考-海運・港湾への影響-」と題して、御講演をいただきました。



難波会長(静岡市長)あいさつ



講演会の様子

経済と暮らしを支える港づくり全国大会に参加

令和6年11月28日(木)、東京のANA インターコンチネンタルホテル東京において、日本港湾協会など、港湾関係5団体による実行委員会が主催する、「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が開催されました。

当振興会からは小長井副会長(富士市長)、杉本副会長(牧之原市長)、齊藤監査員(熱海市長)、松木市長(下田市)、中野市長(焼津市)、岡部町長(南伊豆町)、深澤町長(松崎町)をはじめ31名が出席しました。

大会では、来賓として多数の国会議員をお招きし、各地区の港湾所在市町村長の代表による港湾整備・振興に関する意見表明、港湾整備の推進に向けた決議が行われました。

大会に先立ち、令和6年11月27日(水)、明治記念館で東海地区港湾協議会主催による国会議員との懇談会が行われ、御出席いただいた市町村の代表が意見発表・要望を行い、港湾整備への支援を訴えました。

全国大会終了後は、県内選出の国会議員へ要望活動を行いました。

県外港湾視察研修を実施

静岡県港湾振興会では、令和6年12月5日(木)、6日(金)の2日間、会員団体等から18名が参加し、神奈川県川崎市の川崎港、株式会社レゾナック川崎事業所、川崎キングスカイフロント東急REIホテルの視察研修を実施しました。

川崎港では、市の巡視船にて港内を視察しました。港湾機能脱炭素化に関する取り組みやカーボンニュートラルポート(CNP)形成に向けた取り組み等について、説明を受けました。

2日目の企業訪問では、カーボンニュートラルの供給側と需要側の取り組みの流れを視察しました。

株式会社レゾナック川崎事業所は、使用済プラスチックを燃やさず、ほぼ全量、製品として蘇らせるケミカルリサイクルの中のガス化という手法で、プラスチックの成分を有効利用し、再び市場に供給しています。

川崎キングスカイフロント東急REIホテルは、使用済みプラスチック由来の水素エネルギーによる電力の活用、食品廃棄物を電力にリサイクルする取り組みと再生可能エネルギーの買い取りによりCO2フリー電力ホテルを実現させています。

視察日は天候も穏やかで、各担当の皆様からの丁寧な概要説明をいただき大変有意義な研修となりました。



川崎港船上からの眺め(東扇島臨港地区)



川崎プラスチックリサイクルプラント(KPR)



川崎キングスカイフロント東急REIホテルにて概要説明

「みなとオアシス土肥」登録証交付式が開催されました!

令和6年7月12日、伊豆市土肥松原公園にて、松原公園津波避難複合施設「テラッセ オレンジ トイ」竣工式典及び「みなとオアシス土肥」登録証交付式が開催されました。

「みなとオアシス」とは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進する目的で設立された制度です。住民参加による地域振興の取組が継続的に行われる施設について、国土交通省港湾局長が申請に基づき登録を行います。静岡県内では、これまでに清水港、田子の浦港、御前崎港、下田港、沼津港、浜名港、大井川港が登録されており、土肥港は8件目の事例となりました。

みなとオアシス土肥は、「津波避難複合施設を活用した防災観光の推進」をコンセプトに、伊豆市が設置・運営するものです。代表施設である「Terrasse Orange toi (テラッセ オレンジ トイ)」は、災害発生時には約1,200人を受け入れる一時避難場所としての機能を保持しながら、平時には観光案内や地場産品を用いた飲食物の提供を行うなど、地域住民と観光客の憩いの場として活用されます。一部フロアでは災害物資の備蓄も行っており、陸路での移動が制限された場合には、みなとオアシス構成施設の一つである駿河湾フェリー旅客ターミナルを利用して、人員や物資の輸送を実施する計画となっています。その他、松原公園や土肥金山などの周辺観光施設も、構成施設に指定されています。

登録証交付式には、国土交通省稲田港湾局長、増井副知事をはじめ多くの関係者が出席し、盛大な式典となりました。

【テラッセ オレンジ トイ 施設概要】

施設名：松原公園津波避難複合施設

(愛称：「Terrasse Orange toi (テラッセ オレンジ トイ)」)

所在地：伊豆市土肥 2657-6 松原公園内

機能等：避難面積約 600㎡、想定避難者約 1,200人



みなとオアシス土肥 構成施設



【テラッセ オレンジ トイ 外観】



【式典の様子】



祝 大井川港開港 60 周年 『物流とにぎわいで地域とともに歩む大井川港』

大井川港は、平成20年11月の市町村合併により、市が管理運営する港湾となり、昨年、開港60周年を迎えました。

○60周年記念事業「帆船日本丸」の寄港

大井川港の夏の風物詩として、市民手作りの熱いダンスイベント「踊夏祭(おどらっかさい)」が港内の特設会場で開催されました。今回は、「手筒花火」が5年ぶりに復活し、来場した方を魅了しました。また、トライアスロン大会も同時開催され、多くのアスリートが、スイム、バイク、ランニングの3種目でタイムを競いました。

そして、開港60周年を迎え、今回の目玉事業として“太平洋の白鳥”と称される大型練習帆船「日本丸」が初寄港し、令和6年7月12日～16日まで港内に停泊しました。踊夏祭・トライアスロンとの同時開催をした効果もあり、市内外から約3万人の方々が訪れ、船内の一般公開では、地元出身の実習生などとのふれあいにより、記念イベントを大いに盛り上げたところです。



駿河湾から臨む現在の大井川港



夜ライトアップされた帆船「日本丸」



日本丸をバックにスイム

○開港60周年記念式典と次の10年に向けて

60周年記念のハイライトとなるイベントが、令和6年10月28日に開催された「60周年記念式典」です。この式典は、大井川港振興会が主催する事業として、大井川港に関わる皆様方への感謝とこの先10年への更なる成長を祈願し、開催されました。当日は、国会議員、国土交通省港湾局長、静岡県副知事をはじめ多くの来賓をお招きするとともに、大井川港で長年従事された方々に対して永年勤続者表彰を行いました。また、記念講演として、日本大学理工学部の岡田教授による「港湾産業とみなとまちづくり～大井川港への期待～」と題して、“物流”と“にぎわい”の両面にスポットを当てた今後の大井川港の展望について御講演をいただき、盛況のうちに終了しました。

大井川港は、産業面で地域の生活インフラを担う重要な物流港として、地域の皆様と一体となった振興を図るにぎわい拠点として、「物流と賑わい」の両面で更なる成長を目指して取り組んでまいります。

みなとニュース

日の出岸壁改良工事

清水港日の出地区では、国が進めてきた岸壁改良工事が令和6年3月に完了し、15万トン級のクルーズ船や貨物船の2隻同時接岸が可能になりました。完成時には記念式典が開催され、国、県の関係者をはじめとする多くの関係者が出席しました。

清水港に寄港する客船は年々増加し、コロナ禍が明けた令和5年は、過去最多となる57隻の客船が寄港しました。そして令和6年はそれをさらに上回る87隻の客船が寄港し、静岡県の賑わい拠点として、重要な役割を果たしています。2隻同時接岸が可能となることにより、利便性が向上し、より多くの客船の受入が期待されます。



2隻同時接岸実施時の様子（令和6年9月22日）



記念式典の様子

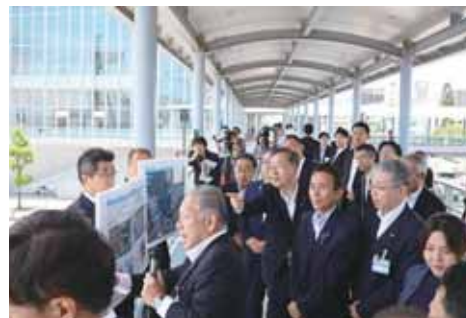
国土交通大臣が清水港を訪れ、港湾の整備状況などを視察

令和6年6月8日（土）に齊藤鉄夫国土交通大臣（当時）が清水港を訪れ、鈴木知事が同席のもと JR 清水駅前の江尻地区で県が進める港湾整備の状況などを視察しました。

県からは齊藤大臣に、JR 清水駅から連なるペデストリアンデッキの上で、駿河湾フェリーの新発着場となる岸壁工事の状況を実際に見て頂きながら、駿河湾フェリー発着場移転に向けた取組や、日の出地区におけるクルーズ船誘致に向けた取組を説明しました。

県では、江尻地区で、駿河湾フェリーの新発着場となる岸壁工事を令和7年3月の完了を目指して進めています。発着場の移転により、駿河湾フェリーがJR清水駅と直結し、利便性の大幅な向上が期待されます。更に、江尻地区では、新鮮な魚介類を提供する清水魚市場「河岸の市」の工事が令和7年4月のリニューアルに向けて進められていますので、フェリー移転と相乗的に、この地区の賑わいが創出されることも期待されます。

清水港が“物流の拠点”として、また“にぎわいの拠点”として、ますます利用される港となるよう、地域の皆様といっしょに“みなとまちづくり”を進めています。



写真手前中央左から、静岡県交通基盤部長 森本哲生、国土交通大臣 齊藤哲夫（当時）、静岡県知事 鈴木康友



日の出地区：クルーズ船寄港（令和6年5月5日）

浜名湖ミナトリング 2024

令和6年7月20日(土)、21日(日)の2日間、浜名港にて浜名湖を満喫できるイベント「浜名湖ミナトリング 2024」が開催されました。

浜名湖ミナトリングは、浜名湖周辺で育まれた歴史・文化や産業、レジャー、食材などを感じ、楽しんでもらうことで、浜名湖を賑わいと魅力発信の拠点としていくための取組です。平成29年度に開始され、コロナ禍による3回の中止を挟んで、今年で第5回目の開催となりました。小型漁船やプレジャーボートの乗船体験、各種体験イベント・展示、グルメ、ステージなど様々な催事を通じて、海や船、浜名湖、浜名港などに代表される地域資源の魅力を感じていただくことができました。

また、今回は、令和4年と同様に、カジキ釣り大会及びキューバヘミングウェイカップとの同時開催となりました。連日の猛暑の中ではありますが、家族連れを中心に約8千人もの方々にご来場いただき、とても賑わいました。



プレジャーボート体験乗船



鈴木県知事あいさつ

清水港のポートセールス活動

清水港の利用拡大を図るためのポートセールス活動として、静岡県、静岡市、清水港の港湾物流事業者等で構成する「清水港ポートセールス実行委員会」主催によるセミナーを毎年開催しています。

中部横断自動車道の開通により、身近になった山梨県、長野県等の甲信地域を対象に、清水港 / 富士山静岡空港セミナーを毎年8月頃に甲府市で開催しており、令和6年8月1日(木)に開催されたセミナーも非常に盛況でした。

この他、首都圏の荷主企業や船社を対象とした首都圏セミナーを都内で開催しているほか、県西部地域の荷主向けのセミナーを浜松市で開催するなど、各地域の荷主企業に清水港の魅力、利用のメリットなどを説明し、清水港の利用を呼びかけています。

セミナー以外でも、清水港に寄港するコンテナ船社の本社を訪問し、トップセールスを実施するなど、清水港への寄港継続を呼びかける取組も行っています。

これからも、清水港の取扱貨物量、航路数の増加を目指して、官民一体となってポートセールスに取り組んでいきます。



清水港 / 富士山静岡空港セミナー
(令和6年8月1日 甲府市) の様子

清水港 三保内浜海岸の美化活動

清水港の三保内浜海岸では、官民の様々な団体による清掃イベントが頻繁に行われています。令和5年度からは、民間事業者「三保内浜コンソーシアム」が同海岸の砂浜と背後地の一部を長期占用し、日常的なパトロールや清掃、マリンスポーツ大会等のイベント誘致・運営を行うエリアマネジメントに取り組んでいますが、清掃イベントはエリアマネジメントと連携した取組として継続的に開催され、海岸の美化に貢献してくれています。

写真はその一例です。海開き前の令和6年7月13日(土)に行われた「三保内浜クリーンアップ協議会」(事務局：静岡市)によるクリーンアップ活動の様子です。

漂着ゴミに加え、不法投棄や焚火の放置等マナー違反によるゴミも度々発生しますが、エリアマネジメントによる日々の清掃に加えて、大人数を集めた清掃イベントにより、三保内浜海岸はいつ訪れても美しい海岸に保たれています。



クリーンアップ活動の様子
(提供：静岡市 清水みなと振興課)

浜名湖今切口合同安全パトロールを実施

令和6年7月27日(土)、県、湖西市、浜松西警察署、湖西警察署、浜松市消防局、湖西市消防本部及び御前崎海上保安署が連携し、浜名湖今切口付近の危険性を周知啓発するため、合同安全パトロールを実施しました。

今切口付近は潮流が速い上に波が複雑で、導流堤や小型漁船からの転落、プレジャーボートの衝突による死亡事故が発生しています。

そのため、今切口付近の各導流堤については立入禁止区域としていますが、釣果を上げたい釣り人の立入りが後を絶たないのが実情です。

この取り組みは令和4年12月から実施しているもので、今年度としては2回目の実施になります。

当日は、東導流堤(浜松市中央区舞阪町)及び西導流堤(湖西市新居町新居)の立入禁止区域内を巡回し、当該区域内にいた釣り人に退去を指導し、32人全員に退去していただきました。

今後も、安全パトロールを継続的に実施し、浜名湖今切口付近の危険性の周知啓発を図っていきます。



浜名湖今切口立入禁止区域



パトロールの様子

田子の浦港のカーボンニュートラルポート（CNP）形成に向けて

本県が「2050年温室効果ガス排出量実質ゼロ」を目指すなかで、港湾分野における「カーボンニュートラルポートの形成」が主要な施策の一つとなっています。

そこで、国内外の多くの貨物を取り扱う国際拠点港湾の清水港、重要港湾の御前崎港及び田子の浦港では、官民一体となって議論を行い、温室効果ガスの削減目標や削減に向けた具体的取組を定めた計画を策定することとしています。令和6年3月には清水港において策定された「清水港港湾脱炭素化推進計画」を公表し、現在、御前崎港では策定を進めております。

また、田子の浦港では、令和6年9月4日に国や県、民間企業など27団体からなる「田子の浦港港湾脱炭素化推進協議会」を設立し、第1回協議会を開催しました。今後、本協議会で、田子の浦港の脱炭素化に向けて実施すべき取組やロードマップ等について議論を重ね、「田子の浦港港湾脱炭素化推進計画」を策定していきます。

世界に開かれた田子の浦港が、荷主や船社から選ばれる港となるよう官民一丸となり、CO2排出量の削減に加え、ヘドロ等のイメージを払拭するため、水質環境改善の取組みも実施し、カーボンニュートラルポートの形成を目指します。



田子の浦港航空写真



田子の浦港港湾脱炭素化推進協議会の状況

第35回大井川港釣り大会～大井川港開港60周年記念事業～

令和6年9月29日（日）、焼津市大井川港内北岸壁と東岸壁において、「第35回大井川港釣り大会」が開催されました。

大井川港釣り大会は、旧大井川町時代から毎年開催されているイベントで、今回が第35回目となります。本大会の参加者は、150名で、岸壁に参加者が並ぶ様子は非常に見ごたえがありました。

当日は釣り競技が行われたほか、毎年恒例の初心者釣り教室や魚捌き教室に加え、大井川港開港60周年を記念して、カサゴの稚魚の放流を今回初めて実施し、競技終了後には金魚すくいが開催され、子どもから大人まで楽しめるイベントが繰り広げられました。

また、ステージではやいづマリンレディによる公式イメージソングも披露され、大会をより一層盛り上げてくれました。飲食・雑貨などが並ぶレインボーマーケットも同時開催され、大いに賑わいました。



釣り競技中



稚魚の放流

Seatrade Cruise Med2024

県では、クルーズ船誘致活動として船社訪問、商談会への出展、船社や旅行会社に現地案内を行うファミトリップなどさまざまな活動を実施しています。

また、港湾情報及び観光の魅力を効果的に外国船社にPRするため、東京都、静岡県、和歌山県、高知県、鹿児島県の太平洋側港湾5都県で連携した「線」での誘致活動に取り組んでいるところです。

この事業の一環として、令和6年9月11日（水）～12日（木）にスペイン・マラガで開催されたクルーズ船見本市「Seatrade Cruise Med2024」に出展し、アジア・クルーズを運航している外国船社、アジア・クルーズを検討している外国船社に対して本県港湾のPRを行いました。

この見本市には、多数の船社関係者が参加しており、県内港湾に寄港実績のある船社だけでなく、未寄港の船社とも商談を行う貴重な機会となりました。

今後も県内港湾へのクルーズ船寄港の増加に向け、積極的なセールス活動に取り組んでいきます。



Seatrade Cruise Med2024の様子



商談の様子（写真右が県港湾振興課職員）

県内のクルーズ船寄港状況について

県内港湾へのクルーズ船寄港数は、コロナ禍を経て外国船の運航が再開された令和5年に、過去最多の67回（うち清水港57回）を記録しました。令和6年も寄港ラッシュは続き、前年を上回る91回（うち清水港87回）の寄港がありました。

令和6年4月には、清水港客船誘致委員会設立のきっかけとなった客船「クイーン・エリザベス2」の船名を受け継ぐ「クイーン・エリザベス」が寄港し、岸壁はいつも以上の賑わいを見せました。

また、同月、御前崎港には「ダイヤモンド・プリンセス」が初めて寄港しました。大漁旗やはいばら太鼓の演奏によるお出迎え・お見送りを行ったほか、岸壁にはキッチンカーや体験ブース等が多数出店し、地域一体となって乗客乗員を歓迎しました。

令和7年も、令和6年を超える数の入港予約が入っています。ぜひ港に足を運んでいただき、お見送りにご参加ください。



クアンタム・オブ・ザ・シーズ（清水港初寄港）



県内港湾へのクルーズ船寄港数及び乗客数の推移（速報値）

清水港物流視察会

清水港ポートセールス実行委員会では、清水港の利用促進を図るため、荷主企業の方々を対象とした「清水港物流視察会」を開催しています。

この視察会では、清水港の概要や税関業務の概要などを説明するとともに、新興津コンテナターミナルや物流倉庫の作業の様子をご覧いただき、最後には海上から清水港を視察していただきました。

参加者の皆様からは、普段めったに見ることができない現場を見学することができ勉強になった、今回の視察会で清水港をより身近に感じることができた、実際の視察を通じ清水港利用のメリットを知ることができたなど、好評の声を多数いただきました。

今後もこの視察会を通して、清水港の特徴、魅力を知っていただき、引き続きの利用や新たな活用につなげていきたいと考えています。



清水港物流視察会（第1回 令和6年9月26日）の様子

浜名港 命山（津波避難施設）の完成（予定）

浜名湖の今切口西側にある湖西市新居弁天地区では、盛土による津波避難施設「命山（いのちやま）」が令和6年度末に完成します。命山と一体となる嵩上げされた防潮堤と合わせ、隣接する（国）1号浜名BPからも遠目にその存在感ある姿を見ることが出来ます。

遠州灘に面する当地は、南海トラフ等を震源域として概ね100年～150年周期で発生する大地震に起因する津波を防ぐために必要な堤防の高さはTP + 8.0m※（遠州灘沿岸海岸保全基本計画（平成27年12月））に見直されましたが、周辺の堤防の高さはTP + 6.2mしかありませんでした。そこで、静岡県では、浜名湖岸部への津波の浸水を防ぐ防潮堤の嵩上げと、釣り客や観光客などの避難場所となる命山の建設を平成26年度から交付金事業により着手し、総額約23億円に及ぶ一大事業を進めてまいりました。完成する命山は地震による沈下も見込み高さTP + 23.0m、最大800人程度が一時避難できる施設となります。

命山の北側には、「みなとオアシス浜名湖」に登録された「今切体験の里 海湖館」や「新居弁天海釣り公園」といった観光施設があり、休日は釣り客などでにぎわう場所であることから、命山の完成により、近隣住民をはじめ観光施設に遊びに来られる方々が安全に安心して過ごすことが出来るようになることを期待しています。



令和6年10月14日



令和6年10月14日

※ TP：Tokyo Peil の略で、東京湾平均海面のこと。地表面の標高や水位を表す場合の基準となる水準面



みなと“自慢”



松崎町 産業建設課

～みんなで港の賑わい促進と防災活用（松崎港）～

1 令和6年6月 松崎と東京が初めて結ばれました！

令和6年6月15日、東京都港区竹芝桟橋と松崎新港の間を結ぶ臨時便として、東海汽船の高速ジェット船が運行されました。令和5年10月、大島・松崎新港間テスト運行の際に、松崎新港のさらなる利活用を目指し、深澤町長が東海汽船に要望したところ、前向きに検討していただき、今回の実現に至りました。



東京からの観光客を迎える深澤町長



東海汽船羽根旅客部長と深澤町長による記者会見

メディア各社にも大きく取り上げていただき、町内外から大きな反響をいただきました。驚いたのは、東京からの多くの問い合わせ。乗船チケットの売り出しが始まるとたった1日で東京発の便は満席になったそうです。西伊豆は、観光地として求められている、海路は、観光手段として体験を重視する令和のニーズに合っていると、手ごたえを感じました。

運航日に併せて、隣町西伊豆町と合同で歓迎イベント「松崎新港大宴会」が開催され、松崎新港には、地元グルメを中心とした露店が集結。地元の子供たちのダンスパフォーマンスも披露され、大いに盛り上がりました。

また、高速ジェット船のお見送りの際には、松崎町伝統の太鼓と笛が披露され、まさに松崎新港を中心とした地域一体の取り組みとなりました。



港でのイベントを楽しむ出店者



地元のダンスキッズには、観光客から沢山の拍手！



松崎三省社による伝統の太鼓と笛の披露

2 防災面での活用 ～海路を活用した訓練の実施～

東日本大震災以降、地震や津波に対する人々の関心は高まっています。さらには、令和6年1月に発生した能登半島地震では、甚大な被害が発生するとともに、多くの集落が孤立しました。松崎町のある伊豆半島においても、大規模災害発生時には陸路の寸断が危惧され、海路による救援活動や緊急物資の輸送が不可欠になります。

令和5年には、松崎新港において、国土交通省や静岡県等の御協力のもと駿河湾フェリーを活用した緊急物資輸送訓練が初めて実施されました。

今後も、被災者支援が迅速に行えるよう、海路を活用した訓練を継続して実施していきたいと考えています。



駿河湾フェリーを活用した支援車両輸送訓練

3 松崎港ポートサポータークラブ ～住民有志による港の活性化～



正月飾りで作る「オの神」

松崎港の環境美化に協力し、松崎港から地域に元気を発信しようという地域住民有志の会となる「松崎港ポートサポータークラブ」が平成29年に発足し、港湾周辺の清掃活動や花の植栽活動はもちろんのこと海水浴場の筏作りや夏の盆踊り、冬の風物詩であるどんど焼き用の「オの神づくり」等の賑わいづくり活動、さらには商工会や観光協会の松崎港に関するイベントへの協力などを行い松崎港の活性化に貢献しています。



夏の盆踊り



たくさんのボランティアが参加した大雨後の海岸清掃

港を取巻く産業活動の変化～ “田子の浦港”開港 50 周年に 重なる思い

元静岡県交通基盤部河川砂防局技監
元静岡県田子の浦港管理事務所長
梅原 正



「日本丸」船長室に飾られた
《田子の浦港寄港記念盾》の隣にて

私は昭和56年4月、当時の土木部港湾課港湾環境係に配属されたのを振り出しに、様々な立場で港湾行政に関わり平成31年3月に定年を迎えました。

元号が令和に改まったこの年、W杯ラグビー日本大会の“桜ジャージ”は、アイルランドからエコパスタジアムで大金星を挙げます。その歓喜が冷めやらぬ中、旭化成の吉野彰氏ノーベル賞授与のニュースが飛び込みます。川勝前知事は、この二つを引合せ「静岡県が世界の檣舞台に立った誇らしい一年になった」と年末を締括ります。

私はこのコメントに、喜びと驚きに加え、田子の浦港を取巻く産業活動の変化に複雑な思いが浮び上ります。

■ 高度経済成長期に着手した「田子の浦港」の整備

田子の浦港は、昭和33年に静岡県総合開発計画に基づき、富士山の豊富な伏流水を利用する製紙業を中心とする東駿河湾臨海工業地域の拠点として掘込港湾の建設に着手します。

港の東隣に立地する旭化成は、当時の斎藤寿夫知事のトップセールスにより誘致した化学繊維工場が起源で、専用岸壁を備える工場は、早くも昭和34年に国産技術初のアクリル繊維「カシミロン」の生産を開始します。

田子の浦港は、大昭和製紙をはじめとする製紙業の発展や、旭化成などの特色のある企業の進出により工業港として発展し、昭和41（1966）年4月に国際貿易港の証しである関税法による開港指定を受けます。

■ 産業活動の変化に対応する港湾計画

現在の港は、中央省庁再編により国土交通省が誕生した平成13年の7月に開催された交通政策審議会



開発前（昭和33年2月）と港湾計画改定時（平成13年7月）の水際線

第1回港湾分科会の議を経た“計画改訂”を基に、6度の“軽微な変更”を重ね今日の姿に至ります。

私は、この年4月に人事交流先の清水市から港湾企画室に異動したばかりで、改訂（案）の表面的な理解が精一杯でしたが、その骨子は次のとおりです。

【主要課題】

- ・開港時の計画を上回る大型バルカー船の就航は、積荷を減らす喫水調整や満潮を利用して入港
- ・中でも大昭和製紙備船のウッドチップ船は、清水港袖師第二埠頭に寄港して荷卸し

【計画改訂のポイント】

- メインバース中央埠頭の水深9mを12mに増深する港湾機能の強化
- ～清水港を経由するウッドチップのモーダルシフト



水深9mの対象船舶 10,000D/W を上回る大型バルカー船の着岸

国の審議会には、私は副知事や総室長のカバン持ちとして直属の上司とともに同行したのですが、審議を待つ間の控室でのチョットした出来事がありました。

国の担当者が大昭和製紙系列工場のリストラを掲載した業界紙を携え、富士地区の動向について興奮気味に問い詰めに来たのです。細かいことは覚えていませんが、審議会の対応を担当者に諭す上司の気概は、今も記憶しています。

■「田子の浦港」を取巻く経済・産業活動の変化

港湾計画は、概ね10年後を目標年次として改訂しますが、経済のグローバル化の進展や国境を越えた都市間競争を背景とする活発な企業活動を思うと、将来貨物の推定は想定に過ぎなかったと当時を振り返ります。

様々な高級ブランド生地の開発・生産を拡大した旭化成の富士工場ですが、平成14年10月、新興国との競争の激化を背景に、同年度中にアクリル繊維すべての生産を停止することを発表します。同社専用岸壁を公共施設に転用する「軽微な変更」は、平成16年5月開催の地方港湾審議会に諮り了承されます。

一方、日本製紙と大昭和製紙は、平成13年3月に事業統合に合意し、平成15年4月に正式に合併します。前段の出来事の新聞記事は、両社工場の停止や廃棄を検討する真っ只中のリーク報道では、と思っています。

ところが、東日本大震災により、当時の懸念が現実となります。同社は、被災地を含む国内工場を再編する中で、平成24年9月迄に富士地区工場のウッドチップからの紙生産を終結します。

■「田子の浦港」開港50周年記念事業

田子の浦港は、平成28(2016)年に開港50周年の節目を迎え、その年の4月、私は二度目の田子の浦港管理事務所の勤務となります。

田子の浦港の取扱い貨物量は、パブル崩壊後の平成3年から減少に転じ、チップ輸入の消滅はこれに追い打ちをかけます。幸いにも、製紙工場跡地に計画された鈴川エネルギーセンター石炭火力発電所が平成27年9月に運転を開始すると、開港50周年の前年には、ピーク時の44%まで落込んだ貨物量が増加に転じます。



田子の浦港に初寄港した練習帆船「日本丸」の一般公開

開港50周年記念事業はこの様な経済環境下に計画され、4月には官民による実行委員会が結成されます。ところが、何故か民間サイドの盛り上がりは低調で、「記念事業を決めたのは行政で、民間ではない」との冷たい意見が飛び出す始末でしたが、当時の私はこのことに気を留める余裕はありませんでした。

記念事業は、帆船「日本丸」の田子の浦港初の寄港イベントや手作りによる記念式典に加え、斎藤寿夫元知事を顕彰する胸像の有志による建立など、関係団体の一致団結とご尽力により成功裏に終えることが出来ました。

■ノーベル賞受賞に重なる“驚き”と“複雑な思い”

田子の浦港ポートセールス実行委員会の幹事長だった私は、旭化成富士支社の活動も関心事で、ある時、支社長にお尋ねすることが出来ましたが、『何が行われているか知らず、ノーベル賞レベルの研究が行われているかもしれない。』と煙に巻かれてしまいました。

冒頭に述べた“驚き”は、当時の受答えが現実になったことや、吉野氏と静岡県との関係を都合よく結び付けたことへの仰天の気持ちです。

さらに、吉野氏が平成17年からのこの地でのリチウムイオン電池の研究に邁進した報道には、同支社の化学繊維から知的財産への生産シフトが短期間で行われたことに加え、港とは縁遠い研究が行われたことに、複雑な心境となりました。

■あとがき ～利用企業や市民生活のためにある港～

50周年記念事業への民間からの批判的な声は、港を取巻く厳しい社会環境への配慮の示唆との考えに至り、この切っ掛けは退職後のノーベル賞報道です。

記念事業のテーマは纏まりに欠けていましたが、田子の浦港のありのままの利用を紹介することで、“港は利用者のためにある”私の信念を多少なりともアナウンス出来たのではと、この寄稿を通じて当時を思い起しています。

田子の浦港臨海開発の二人の功労者（胸像）
船山 敬次郎 翁（元田子の浦村長） 右
斎藤 寿夫 翁（第2代静岡県知事） 左

- ・ 斎藤寿夫翁を顕彰する胸像の建立は、開港50周年にあわせた地元有志による「斎藤寿夫先生の銅像を建てる会」の取組み
- ・ 田子浦村最後の村長 船山啓治郎翁の胸像の隣に建立し記念式典の同日に除幕

港湾関係行事予定 (令和7年2月1日～令和8年1月31日)

※日程は予定であり、諸事情により変更・中止となる場合があります。

日 程	内 容
2月21日(金)・3月23日(日)・4月20日(日)・4月28日(月)	春季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
3月上旬	伊豆多賀わかめまつり(熱海市 長浜海浜公園)
4月19日(土)・20日(日)	御前崎シーサイドピクニック(御前崎市 マリンパーク御前崎)
4月29日(火・祝)	第31回 大井川港朝市(焼津市 大井川港)
4月下旬	さがら草競馬大会(牧之原市 相良海岸)
4月～10月	体験企画「うなぎつかみ・さかなつかみ・釜揚げしらす」(湖西市 海湖館)
5月4日(日・祝)～6月29日(日)	地引網体験(伊東市 伊東海岸) ※5月6月の毎週日曜日開催
5月16日(金)	黒船祭 海上花火大会(下田港)
5月上旬	春のあたまビール祭り(熱海市 渚親水公園)
5月上旬	なぶら祭り(御前崎市 海鮮なぶら市場)
5月上旬	御前崎灯台まつり(御前崎市 御前崎灯台)
5月中旬	黒船カップ(下田沖)
5月下旬	初島ところ天まつり(熱海市 Shima Terrace初島)
5月予定	めまつ港の街BAR(沼津市 沼津港ほか)
6月上旬	清水港フラワーフェスタ2025(静岡市 清水マリナーミナル)
7月18日(金)	田子の浦港海上安全祈願祭(富士市 田子の浦港)
7月20日(日)	第24回 踊夏祭、第19回 大井川港トライアスロン大会(焼津市 大井川港)
7月20日(日)	マリンスポーツフェスタ(御前崎市、牧之原市 御前崎マリーナ)
7月21日(月・祝)	網代ベイフェスティバル(熱海市 網代港)
7月24日(木)	堂ヶ島火祭り(西伊豆町 仁科漁港(堂ヶ島))
7月25日(金)・8月5日(火)・8月8日(金)・8月18日(月)・8月25日(月)	夏季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
7月25日(金)・8月5日(火)・8月8日(金)・8月18日(月)・8月25日(月)	熱海で遊ば 花火で遊ば(熱海市 渚親水公園) ※7・8月花火開催日と同日に開催
7月上旬	御前崎海水浴場海開き(御前崎市 マリンパーク御前崎)
7月上旬	初島花火大会(熱海市 初島第二漁港)
7月上旬	CABO VIKING CUP(下田沖)
7月中旬	国際カジキ釣り大会(下田沖)
7月中旬	マリンフェスタ(下田市内)
7月中旬	第57回海の祭典納涼花火大会(下田市 白浜大浜海岸)
7月下旬	浜名湖ミナトリング(湖西市 浜名港)
7月	静波海水浴場海開き(牧之原市 静波海岸)
7月	さがらサンビーチ海開き(牧之原市 相良海岸)
8月1日(金)～8月3日(日)	第76回清水みなと祭り(静岡市 清水港)
8月3日(日)	宇佐美夏祭り打上花火(伊東市 宇佐美海岸)
8月4日(月)	第77回初島・熱海間団体競泳大会(熱海市 熱海湾)
8月8日(金)	「灯籠の流れ」打上花火(伊東市 伊東海岸)
8月8日(金)	弓ヶ浜花火大会(南伊豆町 手石港)
8月9日(土)	「太鼓の響き」打上花火(伊東市 伊東海岸)
8月10日(日)	按針祭海の花火大会(伊東市 伊東海岸)
8月14日(木)	やんもの里花火大会(伊東市 八幡野港) ※開催予定
8月14日(木)	令和7年夏季納涼花火大会(下田市内)
8月15日(金)	川奈港いるか浜花火大会(伊東市 いるか浜)
8月22日(金)	伊東温泉箸まつり花火大会(伊東市 伊東海岸)
8月上旬	御前崎みなと夏祭り(御前崎市 マリンパーク御前崎)
8月中旬	伊豆多賀海上花火大会&ビールフェスティバル(熱海市 多賀湾)
8月中旬	伊豆多賀温泉百八体流灯祭&ビールフェスティバル(熱海市 多賀湾)
8月中旬	網代温泉海上花火大会(熱海市 網代湾)
8月	静岡県知事杯石廊崎レース(下田沖)
8月	Trans-Sagami Yacht Race(下田沖)
8月もしくは9月	さがら海上花火大会(牧之原市 相良海岸)
9月15日(月・祝)・10月13日(月・祝)・11月3日(月・祝)	秋季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
9月下旬	第36回 大井川港釣り大会
9月	BERTRAM CUP in SHIMODA(下田沖)
9月もしくは10月	第59回全日本サーフィン選手権大会(牧之原市 静波海岸)
10月上旬	夕映えの花火(西伊豆町 仁科漁港(堂ヶ島))
10月中旬	第25回清水港興津フェア(静岡市 興津国際交流センター)
10月下旬	御前崎マリンパークマラソン(御前崎市 マリンパーク御前崎)
11月上旬	清水港マグロまつり「清水・マグロ博2025」(静岡市 清水港)
11月上旬	熱海おさかなフェスティバル(熱海市 渚親水公園)
12月7日(日)	忘年熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
12月14日(日)	田子の浦ポートフェスタ2025(富士市 田子の浦港)
12月中旬	TAGONOURAイルミネーション2025(富士市 ふじのくに田子の浦みなと公園)
12月20日(土)	とっておき冬花火大会(伊東市 伊東海岸)
12月～令和8年3月	牡蠣小屋(湖西市 海湖館)
令和8年1月中旬	第60回伊東オレンジビーチマラソン2026(伊東市 国道135号バイパス)

編集後記

本年も良い年でありますようにお祈り申し上げます。

今号から、紙面をリニューアルしましたが、皆様いかがでしょうか？

今後も、見やすく分かりやすい紙面づくりに努めて参りますので、御意見・御感想がございましたら、ぜひお寄せください。(K.H.)

【港湾局 公式 Instagram】

県内港湾・漁港の魅力、
港湾に関わる仕事の魅力などを配信！



フォローお願いします。

当会では、会報誌面充実のため皆様からの港に関する情報やニュース・寄稿をお待ちしています。
関係団体の活動、イベントPRなど…どんな些細な事でも構いません。詳しくは下記連絡先までご連絡ください。

編集・発行 静岡県港湾振興会 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部港湾局内
TEL: 054-221-3052 FAX: 054-221-2389 E-mail: shizu.kouwan@gmail.com